

授業計画(シラバス)

科目名	進路研究 I		指導担当者名	就職担当職員
実務経験	無			
開講時期	通年	対象学科学年	動画・映像クリエイト科1年	
授業方法	講義：○	演習：	実習：	実技：
年間時間数	28 時間		週時間数	1 時間
学習到達目標	・就職活動をする心構えの習得と実準備ができる事を目標とする。 ・前期では、一般常識について学び、習得する事を目標達成ポイントとする。 ・後期では、履歴書作成を目標達成ポイントとする。			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績表かは、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。			
使用教材	SUCCESS			
授業外学習の方法	教科書復習			
学期	ターム	項 目	内容・準備資料等	
授業計画 前期	1	オリエンテーション	講師紹介 1-1 これからどう生きるのか(宿題として視聴)	
	2	就職活動の心構え身だしなみ	1-1宿題振り返り 1-2 一生でどのくらい稼げるのか	
	3	就職活動での身だしなみ	5-1~5-1(実践編) 身だしなみ	
	4	就職活動の流れ	学校でのルールと大学生、高校生、専門学校生の違い	
	5	職業を知る	2-2 職種と業種の違いが分かるように *志望動機は飛ばします	
	6	情報収集、企業研究、資料請求 1	2-2(実践編) 業界マップの理解	
	7	情報収集、企業研究、資料請求 2	2-3 業界ごとに必要な仕事内容を理解する	
	8	情報収集、企業研究、資料請求 3	2-3(実践編) 業界ごとに必要な仕事内容を理解する	
	9	自分自身を知る 自分史の作成 1	3-4から3-6-2 ・3-4自己PRのネタを探す	
	10	自分自身を知る 自分史の作成 2	3-4から3-6-2 ・3-4-1自己PRのネタを探す(経験)	
	11	自分自身を知る 自分史の作成 3	3-4から3-6-2 ・3-4-2自己PRのネタを探す(特性)	
	12	自分自身を知る 自分史の作成 4	3-4から3-6-2 ・3-5自己PRの骨格を作る	
	13	自分自身を知る 自分史の作成 5	3-4から3-6-2 ・3-5自己PRの骨格を作る(実践編)	
	14	期末試験(一般常識)	自己PRの確認は必須 時間があれば一般常識など	
履修上の留意点				
・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施				

授業計画(シラバス)

科目名	進路研究 I		指導担当者名	就職担当職員
実務経験	無			
開講時期	通年	対象学科学年	動画・映像クリエイト科1年	
授業方法	講義：○	演習：	実習：	実技：
年間時間数	28 時間		週時間数	1 時間
学習到達目標	・就職活動をする心構えの習得と実準備ができる事を目標とする。 ・前期では、一般常識について学び、習得する事を目標達成ポイントとする。 ・後期では、履歴書作成を目標達成ポイントとする。			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績表かは、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。			
使用教材	SUCCESS			
授業外学習の方法	教科書復習			
学期	ターム	項 目	内容・準備資料等	
授業計画 後期	15	志望動機の作り方 1	3-7 業界、会社にあった動機作り	
	16	志望動機の作り方 2	3-7(実践編) 業界、会社にあった動機作り	
	17	制作書類 1	3-8・3-8(実践編)、3-1~3-3(実践編)、3-6~3-6-2エントリーシート	
	18	制作書類 2	3-8・3-8(実践編)、3-1~3-3(実践編)、3-6~3-6-2封筒の書き方、添え状	
	19	制作書類 3	3-8・3-8(実践編)、3-1~3-3(実践編)、3-6~3-6-2その他の書類、履歴書	
	20	制作書類 4	3-8・3-8(実践編)、3-1~3-3(実践編)、3-6~3-6-2履歴書の完成	
	21	企業訪問	5-1,5-2	
	22	就職試験のマナー 1	5-2~5-3(実践編) 入退室	
	23	就職試験のマナー 2	5-2~5-3(実践編) 面接試験対策1	
	24	就職試験のマナー 3	5-2~5-3(実践編) 面接試験対策2	
	25	筆記試験対策 1	5-5,5-5(実践編) 筆記試験について、種類や方法を知る	
	26	筆記試験対策 2	特に小論文の書き方(内容は自己PRや志望動機をまとめる内容がよい)	
	27	筆記試験対策 3	特に小論文の書き方(内容は自己PRや志望動機をまとめる内容がよい)	
	28	期末試験(履歴書)	履歴書提出	
履修上の留意点				
・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施				

授業計画(シラバス)

科目名	クロスオーバーゼミⅠ		指導担当者名	常勤
実務経験	無			
開講時期	通年	対象学科学年	動画・映像クリエイト科1年	
授業方法	講義：	演習：○	実習：	実技：
年間時間数	56 時間		週時間数	2 時間
学習到達目標	・学校の特徴でもある複数分野の授業を横断的に学習し、視野を広げ見地を高める。 ・授業内における複数のカリキュラムメニューから自身の興味関心のあるものを選び学習をすることで無理なく学びにつなげることができ、自身の可能性と得意分野を広げていく。			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績表かは、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。			
使用教材	ゼミごとに異なる			
授業外学習の方法	ゼミごとに異なる			
学期	ターム	項 目	内容・準備資料等	
授業計画 前期	1	オリエンテーション	授業の目的、使用教材についての理解、各担当講師から授業内容について説明。授業選択。	
	2	選択基礎1	選択授業の基礎を学ぶ。	
	3	選択基礎2	選択授業の基礎を学ぶ。	
	4	選択基礎3	選択授業の基礎を学ぶ。	
	5	選択基礎4	選択授業の基礎を学ぶ。	
	6	選択基礎5	選択授業の基礎を学ぶ。	
	7	選択基礎6	選択授業の基礎を学ぶ。	
	8	選択基礎7	選択授業の基礎を学ぶ。	
	9	選択基礎8	選択授業の基礎を学ぶ。	
	10	選択基礎9	選択授業の基礎を学ぶ。	
	11	選択基礎10	選択授業の基礎を学ぶ。	
	12	選択基礎11	選択授業の基礎を学ぶ。	
	13	選択基礎12	期末試験範囲発表、期末試験範囲振り返り	
	14	期末試験	期末試験	
履修上の留意点 ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施				

授業計画(シラバス)

科目名	クロスオーバーゼミⅠ		指導担当者名	常勤	
実務経験	無				
開講時期	通年	対象学科学年	動画・映像クリエイト科1年		
授業方法	講義：	演習：○	実習：	実技：	
年間時間数	56 時間		週時間数	2 時間	
学習到達目標	・学校の特徴でもある複数分野の授業を横断的に学習し、視野を広げ見地を高める。 ・授業内における複数のカリキュラムメニューから自身の興味関心のあるものを選び学習をすることで無理なく学びにつなげることができ、自身の可能性と得意分野を広げていく。				
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績表かは、A(80点~100点：優)、B(70点~79点：良)、C(60点~69点：可)、D(0点~59点：不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。				
使用教材	ゼミごとに異なる				
授業外学習の方法	ゼミごとに異なる				
学期	ターム	項 目	内容・準備資料等		
授業計画 後期	15	オリエンテーション	授業の目的、使用教材についての理解、各担当講師から授業内容について説明。授業選択。		
	16	選択基礎1	選択授業の基礎を学ぶ。		
	17	選択基礎2	選択授業の基礎を学ぶ。		
	18	選択基礎3	選択授業の基礎を学ぶ。		
	19	選択基礎4	選択授業の基礎を学ぶ。		
	20	選択基礎5	選択授業の基礎を学ぶ。		
	21	選択基礎6	選択授業の基礎を学ぶ。		
	22	選択基礎7	選択授業の基礎を学ぶ。		
	23	選択基礎8	選択授業の基礎を学ぶ。		
	24	選択基礎9	選択授業の基礎を学ぶ。		
	25	選択基礎10	選択授業の基礎を学ぶ。		
	26	選択基礎11	選択授業の基礎を学ぶ。		
27	選択基礎12	期末試験範囲発表、期末試験範囲振り返り			
28	期末試験	期末試験			
履修上の留意点					
・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施					

授業計画(シラバス)

科目名	番組制作演習Ⅰ		指導担当者名	鈴木 良明
実務経験	有	テレビ局で映像ディレクターとして3年以上従事		
開講時期	通年	対象学科学年	動画・映像クリエイト科1年	
授業方法	講義：	演習：○	実習：	実技：
年間時間数	84 時間		週時間数	3 時間
学習到達目標	実習を通して動画を撮影・編集を学び、業務レベルの動画を作成できるようになる。			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績表かは、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。			
使用教材	パソコン カメラ			
授業外学習の方法	様々な映像作品を見る			
学期	ターム	項 目	内容・準備資料等	
授業計画 前期	1	オリエンテーション	授業の流れについて	
	2	動画とは	動画についての基礎知識習得	
	3	動画の作成方法について	作成方法と使用ソフトについての説明	
	4	グループ分け	動画制作グループ分け	
	5	動画企画作成①	グループに分かれての動画企画制作	
	6	動画企画作成②	グループに分かれての動画企画制作	
	7	動画企画作成③	グループに分かれての動画企画制作	
	8	撮影①	企画を元にした動画撮影	
	9	撮影②	企画を元にした動画撮影	
	10	撮影③	企画を元にした動画撮影	
	11	編集①	撮影した動画の編集	
	12	編集②	撮影した動画の編集	
	13	編集③	撮影した動画の編集	
	14	期末テスト	作成した映像のプレゼンテーション	
履修上の留意点				
・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施				

授業計画(シラバス)

科目名	番組制作演習Ⅰ		指導担当者名	鈴木 良明
実務経験	有	テレビ局で映像ディレクターとして3年以上従事		
開講時期	通年	対象学科学年	動画・映像クリエイト科1年	
授業方法	講義:	演習: ○	実習:	実技:
年間時間数	84 時間		週時間数	3 時間
学習到達目標	実習を通して動画を撮影・編集を学び、業務レベルの動画を作成できるようになる。			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績表かは、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。			
使用教材	パソコン カメラ			
授業外学習の方法	様々な映像作品を見る			
学期	ターム	項 目	内容・準備資料等	
授業計画 後期	15	前期振り返り		
	16	仕事をする上での動画とは	仕事上で気を付けることを考える	
	17	依頼の受け方	依頼を受ける方法について	
	18	グループ分け	動画制作グループ分け	
	19	動画企画作成①	グループに分かれての動画企画制作	
	20	動画企画作成②	グループに分かれての動画企画制作	
	21	動画企画作成③	グループに分かれての動画企画制作	
	22	撮影①	企画を元にした動画撮影	
	23	撮影②	企画を元にした動画撮影	
	24	撮影③	企画を元にした動画撮影	
	25	編集①	撮影した動画の編集	
	26	編集②	撮影した動画の編集	
	27	編集③	撮影した動画の編集	
28	期末テスト	作成した映像のプレゼンテーション		
履修上の留意点				
・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施				

授業計画(シラバス)

科目名	Adobe演習 I		指導担当者名	橋本若奈
実務経験	有	フリーで5年間動画配信を行う。伴ってCG制作にも従事		
開講時期	通年	対象学科学年	動画・映像クリエイト科1年	
授業方法	講義:	演習:	実習: ○	実技:
年間時間数	84 時間		週時間数	3 時間
学習到達目標	・デジタルにおけるイラスト表現の基礎を習得する ・フォトショップ、イラストレーターの使用技術の習得 ・フォトショップ検定初級を取得する(12月実施予定) ・イラストレーター検定初級を取得する(8月実施予定)			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績表かは、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。			
使用教材	Machintosh PC,IllustratorクイックマスターCC (Win/Mac) 対応,PhotoshopクイックマスターCC (Win/Mac) 対応			
授業外学習の方法	・テキストを使つての事前予習 ・テキストを使つての実技練習			
学期	ターム	項 目	内容・準備資料等	
授業計画 前期	1	Illustrator検定対策(スタンダード)	クイックマスターIllustratorの基礎知識／インターフェース・ツール・パネル	
	2	Illustrator検定対策(スタンダード)	クイックマスターIllustratorの基礎知識／アートワーク・アートボードナビゲーター・ガイド・環境設定	
	3	Illustrator検定対策(スタンダード)	クイックマスターIllustratorの基本操作／オブジェクトの設定と描画	
	4	Illustrator検定対策(スタンダード)	クイックマスターIllustratorの基本操作／編集操作(CP・前後関係・グループ化・移動)	
	5	Illustrator検定対策(スタンダード)	クイックマスターIllustratorの基本操作／カラー設定・レイヤーオブジェクトの組み合わせ	
	6	Illustrator検定対策(スタンダード)	クイックマスターIllustratorの基本操作／文字の作成・文字関連の機能	
	7	Illustrator検定対策(スタンダード)	クイックマスターIllustratorの基本操作／パスの基本的な描画と編集	
	8	Illustrator検定対策(スタンダード)	クイックマスターIllustratorの応用操作／線とアピアランス	
	9	Illustrator検定対策(スタンダード)	クイックマスターIllustratorの応用操作／レイアウトの補助機能	
	10	Illustrator検定対策(スタンダード)	クイックマスターIllustratorの応用操作／グラデーション・スウォッチ・パターン	
	11	過去問題	スタンダード模擬問題-1 解説	
	12	過去問題	スタンダード模擬問題-2 解説	
	13	前期期末試験	実際の試験同様の時間で知識と実技試験の実施	
	14	期末試験フィードバック	検定試験前の最終確認授業	
履修上の留意点				
・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施				

授業計画(シラバス)

科目名	Adobe演習 I		指導担当者名	橋本若奈
実務経験	有	フリーで5年間動画配信を行う。伴ってCG制作にも従事		
開講時期	通年	対象学科学年	動画・映像クリエイト科1年	
授業方法	講義：	演習：	実習：○	実技：
年間時間数	84 時間		週時間数	3 時間
学習到達目標	・デジタルにおけるイラスト表現の基礎を習得する ・フォトショップ、イラストレーターの使用技術の習得 ・フォトショップ検定初級を取得する(12月実施予定) ・イラストレーター検定初級を取得する(8月実施予定)			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績表かは、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。			
使用教材	Machintosh PC,IllustratorクイックマスターCC (Win/Mac) 対応,PhotoshopクイックマスターCC (Win/Mac) 対応			
授業外学習の方法	・テキストを使つての事前予習 ・テキストを使つての実技練習			
学期	ターム	項 目	内容・準備資料等	
授業計画 後期	15	Photoshop検定対策(スタンダード)	クイックマスターPhotoshopの基礎知識／インターフェース・ドキュメントウィンドウ・ツール・パネル	
	16	Photoshop検定対策(スタンダード)	クイックマスターPhotoshopの基礎知識／画面表示・色の選択・環境設定	
	17	Photoshop検定対策(スタンダード)	クイックマスターPhotoshopの基本操作／選択ツール・範囲の読み込み	
	18	Photoshop検定対策(スタンダード)	クイックマスターPhotoshopの基本操作／画像解像度とサイズトリミング	
	19	Photoshop検定対策(スタンダード)	クイックマスターPhotoshopの基本操作／変形・カラーモード色調補正	
	20	Photoshop検定対策(スタンダード)	クイックマスターPhotoshopの基本操作／ペイント・レタッチ・レイヤーの操作	
	21	Photoshop検定対策(スタンダード)	クイックマスターPhotoshopの基本操作／パス・切抜・シェイプ・フィルター・テキストの入力について	
	22	Photoshop検定対策(スタンダード)	クイックマスターPhotoshopの応用操作／コンテンツ制作・ロゴ制作／カスタムシェイプ	
	23	Photoshop検定対策(スタンダード)	クイックマスターPhotoshopの応用操作／コンテンツ制作・フォトカード／アクション	
	24	Photoshop検定対策(スタンダード)	クイックマスターPhotoshopの応用操作／Webページの制作	
	25	過去問題	スタンダード模擬問題-1 解説	
	26	過去問題	スタンダード模擬問題-2 解説	
	27	前期期末試験	実際の試験同様の時間で知識と実技試験の実施	
	28	期末試験フィードバック	検定試験前の最終確認授業	
履修上の留意点				
・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施				

授業計画(シラバス)

科目名	ストリーミング実習 I		指導担当者名	パクスフン
実務経験	無			
開講時期	通年	対象学科学年	動画映像クリエイト科1年□	
授業方法	講義：	演習：	実習：○	実技：
年間時間数	84 時間		週時間数	3 時間
学習到達目標	実習を通して動画を撮影・編集を学び、さらには配信の現場を自分たちで作れるようになる。			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績表かは、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。			
使用教材	パソコン カメラ ATEM□			
授業外学習の方法	様々な映像作品を見る□			
学期	ターム	項 目	内容・準備資料等	
授業計画 前期	1	配信とは	配信とは？(配信の仕組み、必要な機材の説明)	
	2	配信の基本セティング1	カメラの設定	
	3	配信の基本セティング2	変換器の設定	
	4	配信の基本セティング3	スイッチャーの設定	
	5	OBSの設定	基本的な使い方を学ぶ	
	6	音楽配信のOBSの設定	音楽配信のためのOBSの設定を作成してみる	
	7	音響き材の基礎	マイク	
	8	音響き材の基礎	スピーカー	
	9	音響き材の基礎	みきささー	
	10	ゲーム大会の配信の基本セッティングを作ってみる	OBS設定、マイクの設定を習得する	
	11	ゲーム大会の配信の基本セッティングを作ってみる	OBS設定、マイクの設定を習得する	
	12	ゲーム大会の配信の基本セッティングを作ってみる	OBS設定、マイクの設定を習得する	
	13	期末試験	実技試験:配信オペレーション	
	14	振り返り	フィードバック、今後の改善点	
履修上の留意点				
・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施				

授業計画(シラバス)

科目名	ストリーミング実習 I		指導担当者名	パクスフン
実務経験	無			
開講時期	通年	対象学科学年	動画映像クリエイト科1年□	
授業方法	講義：	演習：	実習：○	実技：
年間時間数	84 時間		週時間数	3 時間
学習到達目標	実習を通して動画を撮影・編集を学び、さらには配信の現場を自分たちで作れるようになる。			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績表かは、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。			
使用教材	パソコン カメラ ATEM□			
授業外学習の方法	様々な映像作品を見る□			
学期	ターム	項 目	内容・準備資料等	
授 業 計 画 後 期	15	前期振り返り		
	16	配信のためのプランニング	配信時間を考える	
	17	タイムコード	音声と映像を合わせる	
	18	配信企画	配信の企画を立てる	
	19	配信必要な素材	配信するときに画面に必要な情報を一覧にまとめる	
	20	良い音で配信するためには？	配信での良い音する方法	
	21	音楽以外の配信プラン	朗読劇での配信	
	22	音楽以外の配信プラン	e-Sportsでの配信	
	23	音楽以外の配信プラン	演劇での配信	
	24	卒業ライブで配信するたのプラン	配信プランを立ててみる	
	25	卒業ライブで配信するたのプラン	実際に配信をしてみる	
	26	卒業ライブで配信するたのプラン	弾き語りの配信をしてみる	
	27	期末試験		
28	振り返り			
履修上の留意点				
・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施				

授業計画(シラバス)

科目名	作品制作実習 I			指導担当者名	矢田部翔子
実務経験	無				
開講時期	通年	対象学科学年	動画・映像クリエイト科1年		
授業方法	講義:	演習:	実習: ○	実技:	
年間時間数	84 時間			週時間数	3 時間
学習到達目標	・作品数を増やす ・就職活動用のポートフォリオを制作する				
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績表かは、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。				
使用教材	WindowsPC、Adobeソフト				
授業外学習の方法	制作物の整理と管理				
学期	ターム	項 目	内容・準備資料等		
授 業 計 画 前 期	1	ポートフォリオ解説	ポートフォリオの説明		
	2	レイアウトの基礎	名刺を制作、イラストレーターの使い方		
	3	レイアウトの基礎	余白、整頓、行間		
	4	レイアウトの基礎	フォーマットをトレースする		
	5	レイアウトの基礎	フォーマットをトレースする		
	6	作品制作	ロゴマークの解説		
	7	作品制作	ロゴマーク制作		
	8	作品制作	課題発表、発表		
	9	レイアウトの基礎	就活用プロフィールを作る		
	10	レイアウトの基礎	オリジナルフォーマットを作る		
	11	作品制作	試験課題発表		
	12	期末試験準備	課題制作		
	13	期末試験	課題提出、プレゼンテーション		
	14	振り返り			
履修上の留意点					
・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施					

授業計画(シラバス)

科目名	作品制作実習Ⅰ		指導担当者名	矢田部翔子
実務経験	無			
開講時期	通年	対象学科学年	動画・映像クリエイト科1年	
授業方法	講義：	演習：	実習：○	実技：
年間時間数	84 時間		週時間数	3 時間
学習到達目標	・作品数を増やす ・就職活動用のポートフォリオを制作する			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績表かは、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。			
使用教材	WindowsPC、Adobeソフト			
授業外学習の方法	制作物の整理と管理			
学期	ターム	項 目	内容・準備資料等	
授業計画 後期	15	ポートフォリオ解説	就活用ポートフォリオ制作とは	
	16	就活用ポートフォリオ解説・制作	カテゴリー分けについて	
	17	就活用ポートフォリオ解説・制作	レイアウトについて	
	18	就活用ポートフォリオ解説・制作	作品の入れ方について	
	19	就活用ポートフォリオ解説・制作	フォント・文章について	
	20	就活用ポートフォリオ解説・制作	就活用とセルフアピールの違いについて	
	21	中間審査	就活用ポートフォリオの提出、進捗確認	
	22	就活用ポートフォリオ制作	個別指導・添削 カテゴリー分けの確認	
	23	就活用ポートフォリオ制作	個別指導・添削 レイアウトの確認	
	24	就活用ポートフォリオ制作	個別指導・添削 バランスの確認	
	25	就活用ポートフォリオ制作	個別指導・添削 レイアウトと整頓の確認	
	26	就活用ポートフォリオ制作	個別指導・添削 誤字脱字の確認	
	27	期末試験	就活用ポートフォリオの提出、プレゼンテーション	
	28	期末試験フィードバック	課題とプレゼンテーションの講評	
履修上の留意点				
・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施				

授業計画(シラバス)

科目名	メディアリテラシー概論		指導担当者名	松岡純代		
実務経験	有	制作会社、フリーカメラマンとして写真撮影業務に10年間従事し、現在も活躍中				
開講時期	通年		対象学科学年	動画・映像クリエイト科1年		
授業方法	講義：○		演習：		実習：	実技：
年間時間数	28 時間			週時間数	1 時間	
学習到達目標	前期のポイント(以下の力を身に付ける) ・情報モラル ・メディアに対する自己コントロール力 ・情報をうのみにせず主体的批判的に受け取る力					
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績表かは、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。					
使用教材	Machintosh PC、ノート、筆記用具					
授業外学習の方法	・メディアに触れること					
学期	ターム	項 目		内容・準備資料等		
授業計画 前期	1	授業の説明		進め方、概要		
	2	メディアリテラシーを考える		メディアリテラシーの意味		
	3	メディアを知る		メディアの種類		
	4	SNSを知る		SNSを使用する上での注意点		
	5	SNSトラブル		SNSトラブルの対処法、ポイント		
	6	ネット犯罪		加害者・被害者にならないために①		
	7	ネットストーカー		加害者・被害者にならないため②		
	8	アンガーマネジメント		自己マインドのコントロールについて		
	9	ネットニュース		ネットニュースの仕組み		
	10	フェイクニュース		文章の編集、画像・動画の編集、切り取りについて		
	11	ネット広告		ネット広告の仕組み		
	12	期末試験準備		試験範囲発表		
	13	前期期末試験		期末試験		
	14	前期振り返り		前期振り返り		
履修上の留意点 ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施						

授業計画(シラバス)

科目名	メディアリテラシー概論		指導担当者名	松岡純代		
実務経験	有	制作会社、フリーカメラマンとして写真撮影業務に10年間従事し、現在も活躍中				
開講時期	通年		対象学科学年	動画・映像クリエイト科1年		
授業方法	講義：○		演習：		実習：	実技：
年間時間数	28 時間			週時間数	1 時間	
学習到達目標	前期のポイント(以下の力を身に付ける) ・情報モラル ・メディアに対する自己コントロール力 ・情報をうのみにせず主体的批判的に受け取る力					
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績表かは、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。					
使用教材	Machintosh PC、ノート、筆記用具					
授業外学習の方法	・メディアに触れること					
学期	ターム	項 目		内容・準備資料等		
授業計画 後期	15	SNSマーケティング		SNSマーケティングの説明		
	16	SNSマーケティング		バズらせるための考察		
	17	情報発信をしてみよう		記事を書くコツと注意点		
	18	情報発信をしてみよう		記事を読んで分析しよう		
	19	SNSを分析してみよう		アカウント分析		
	20	SNSを分析してみよう		インサイト		
	21	SNSを分析してみよう		マーケティング		
	22	JARO		景品表示法について		
	23	JARO		優良誤認		
	24	JARO		有利誤認		
	25	JARO		薬機法		
	26	期末試験準備		試験範囲発表		
	27	後期期末試験		期末試験		
28	年間の講評					
履修上の留意点 ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施						

授業計画(シラバス)

科目名	映像制作概論		指導担当者名	矢田部翔子	
実務経験	無				
開講時期	通年	対象学科学年	動画・映像クリエイト科1年		
授業方法	講義：	演習：○	実習：	実技：	
年間時間数	56 時間		週時間数	2 時間	
学習到達目標	映像制作における基礎知識、用語を理解し適切に使えるようになることを目的とする。				
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績表かは、A(80点～100点：優)、B(70点～79点：良)、C(60点～69点：可)、D(0点～59点：不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。				
使用教材	動画映像制作ハンドブック				
授業外学習の方法	授業内で提示された課題の自宅学習				
学期	ターム	項 目	内容・準備資料等		
授業計画 前期	1	プリプロ-映像制作のながれ	映像制作の流れをチャートに沿って学習する		
	2	プリプロ-企画、オリエンテーション	映像制作における企画、オリエンテーションとは何かを実際の収録までの作業詳細に沿って理解する。		
	3	プリプロ-シナリオ表現、コンテ	映像制作におけるシナリオ表現の考え方を学び、コンテに落とし込む		
	4	撮影-レンズの特性	レンズの特性についての知識を学ぶ		
	5	撮影-画面サイズ、カメラ・ワーク	画面サイズと呼称、カメラワークの用語について学ぶ		
	6	撮影-撮影機材、撮影の実際	撮影機材の種類、用途と役割、実際の撮影の流れを学ぶ		
	7	照明-照明の役割、色彩表現～照度と色彩	照明の役割、色彩表現の知識を学ぶ		
	8	照明-ライト・ポジション、照明機材	ライトポジション、照明機材の名称・用途を学ぶ		
	9	照明-人物照明、その他	人物照明における3灯照明の基本と応用について、その他の照明についての知識を学ぶ		
	10	素材制作-コンピューター・グラフィックス	映像制作における素材、データ形式に関する知識を学ぶ		
	11	素材制作-2DCG・3DCG、画像合成	2DCG、3DCG、画像合成に関する用語とその意味を学ぶ		
	12	素材制作-音素材、音素材制作	映像制作における音素材に関する知識を学ぶ		
	13	前期期末試験	プリプロ～素材制作までの知識試験		
	14	前期振り返り	前期の振り返り		
履修上の留意点					
・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施					

授業計画(シラバス)

科目名	映像制作概論		指導担当者名	矢田部翔子
実務経験	無			
開講時期	通年	対象学科学年	動画・映像クリエイト科1年	
授業方法	講義：	演習：○	実習：	実技：
年間時間数	56 時間		週時間数	2 時間
学習到達目標	映像制作における基礎知識、用語を理解し適切に使えるようになることを目的とする。			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績表かは、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。			
使用教材	動画映像制作ハンドブック			
授業外学習の方法	授業内で提示された課題の自宅学習			
学期	ターム	項 目	内容・準備資料等	
授業計画 後期	15	録音-録音の基礎、音声の物理	録音の基礎知識、音源の三要素について、音声の物理についての知識を学ぶ	
	16	録音-録音機材	録音機材の名称・用途について学ぶ	
	17	録音-スタジオ録音・ロケでの録音	スタジオ録音の実際とロケでの録音の基本的流れを学ぶ	
	18	編集-編集とは何か、役割、実際	映像制作における編集とは何か、編集に関する用語やその役割と実際の流れを学ぶ	
	19	編集-編集の技法、イマジナリーライン	編集の技法の共通理解知識を学ぶ、イマジナリーラインと180度ルールについて	
	20	編集-音によるカッティング・テロップ	音によるカッティングの知識、テロップデザインについて	
	21	ポストプロ-ポストプロとは・インターレースとフレームレート	ポストプロダクションについての知識を学ぶ	
	22	ポストプロ-モニタリング、カラーコレクション	モニタリング、カラーコレクションの知識を学ぶ	
	23	ポストプロ-MA、納品	MultiAudio、納品の流れを学ぶ	
	24	関連知識①	映像制作の関連知識、業界動向などを学ぶ①	
	25	関連知識②	映像制作の関連知識、業界動向などを学ぶ②	
	26	関連知識③	映像制作の関連知識、業界動向などを学ぶ③	
	27	後期期末試験	録音～関連知識までの知識試験	
	28	後期振り返り	後期の振り返り	
履修上の留意点				
・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施				

授業計画(シラバス)

科目名	動画撮影実習 I		指導担当者名	青木龍太郎
実務経験	有	カメラマン、動画撮影、動画編集者として5年間勤務し、現在フリーで活動している		
開講時期	通年	対象学科学年	動画・映像クリエイト科1年	
授業方法	講義：	演習：	実習：○	実技：
年間時間数	84 時間		週時間数	3 時間
学習到達目標	基礎的な動画撮影方法、Premiere Proでの動画編集技術を習得し、SNS等への動画投稿までの一連の流れを体験する。			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績表かは、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。			
使用教材	Machintosh PC、Premiere Pro			
授業外学習の方法	メディアを通して動画の撮影・編集方法を研究する			
学期	ターム	項 目	内容・準備資料等	
授業計画 前期	1	動画とは	授業の流れについて	
	2	動画を作ってみよう	動画についての基礎知識習得	
	3	動画を作ってみる2	作成方法と使用ソフトについての説明	
	4	配信	動画制作グループ分け	
	5	配信	グループに分かれての動画企画制作	
	6	配信	グループに分かれての動画企画制作	
	7	配信	グループに分かれての動画企画制作	
	8	配信イベント	企画を元にした動画撮影	
	9	配信用のCMを作ってみる	企画を元にした動画撮影	
	10	配信用のCMを作ってみる	企画を元にした動画撮影	
	11	配信用のCMを作ってみる	撮影した動画の編集	
	12	配信用のCMを作ってみる	撮影した動画の編集	
	13	期末試験		
	14	振り返り		
履修上の留意点				
・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施				

授業計画(シラバス)

科目名	動画撮影実習 I		指導担当者名	青木龍太郎
実務経験	有	カメラマン、動画撮影、動画編集者として5年間勤務し、現在フリーで活動している		
開講時期	通年	対象学科学年	動画・映像クリエイト科1年	
授業方法	講義：	演習：	実習：○	実技：
年間時間数	84 時間		週時間数	3 時間
学習到達目標	基礎的な動画撮影方法、Premiere Proでの動画編集技術を習得し、SNS等への動画投稿までの一連の流れを体験する。			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績表かは、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。			
使用教材	Machintosh PC、Premiere Pro			
授業外学習の方法	メディアを通して動画の撮影・編集方法を研究する			
学期	ターム	項 目	内容・準備資料等	
授業計画 後期	15	前期振り返り		
	16	配信のためのプランニング	仕事上で気を付けることを考える	
	17	タイムコード	依頼を受ける方法について	
	18	配信企画	動画制作グループ分け	
	19	配信必要な素材	グループに分かれての動画企画制作	
	20	良い音で配信するためには？	グループに分かれての動画企画制作	
	21	音楽以外の配信プラン	グループに分かれての動画企画制作	
	22	音楽以外の配信プラン	企画を元にした動画撮影	
	23	音楽以外の配信プラン	企画を元にした動画撮影	
	24	校内ライブで配信するたのプラン	企画を元にした動画撮影	
	25	校内ライブで配信するたのプラン	撮影した動画の編集	
	26	校内ライブで配信するたのプラン	撮影した動画の編集	
	27	期末試験		
	28	振り返り		
履修上の留意点				
・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施				

授業計画(シラバス)

科目名	blender演習 I		指導担当者名	橋本若奈
実務経験	有	フリーで動画配信を行う。伴ってCG制作にも従事		
開講時期	通年	対象学科学年	動画・映像クリエイト科1年	
授業方法	講義:	演習: ○	実習:	実技:
年間時間数	84 時間		週時間数	3 時間
学習到達目標	〈通年〉DCCツールであるBlenderの基本を習得し、ローポリゴンモデリング、アニメーション、実写合成ができるようになることを目標とする。 〈前期〉Blenderに慣れる、モデリングのワークフローを学習し、基本的なモデルが制作できるようになることを目標とする。 〈後期〉制作したモデルのアニメーション、実写映像と合成ができるようになることを目標とする。			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績表かは、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。			
使用教材	・Blender・AdobeCC Photoshop・webの画像			
授業外学習の方法	自宅での実習復習			
学期	ターム	項 目	内容・準備資料等	
授業計画 前期	1	オリエンテーションMaya初期設定 & 操作説明【制作】ステージレイアウト	・講師紹介、授業内容等の説明・プリファンス、UI、ディスプレイ設定	
	2	Blenderの基本操作	・オブジェクト作成・基本的なツールの習得1	
	3	プリミティブモデリング	・基本的なツールの習得2	
	4	CSGモデリング	・基本的なツールの習得3・マテリアル設定	
	5	レイアウト	・ポーゼング(ベアレント化、ピボットの移動など)・ライティング、Eeveeレンダリング	
	6	UV展開テクスチャマッピング	以降授業では、AdobeCC Photoshop、ペンタブレットを使用・UV展開:平面マッピング	
	7	3Dテクスチャペイントガラス、金属の質感	・UV展開(境目の処理)・BSDFシェーダで金属・ガラスの質感を学習	
	8	ローポリゴンモデリング	・参考資料、イメージ画像の収集について	
	9	UV展開	・UV展開:円柱マッピング	
	10	資料集め	・アンティーク調モデリング(ティーカップ、洋書、古鍵、机など)	
	11	実制作	・モデリング	
	12	レイアウト	・レイアウト	
	13	ライティング	・ライティング	
	14	【前期期末制作】	Cyclesレンダリング	
履修上の留意点				
・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施				

授業計画(シラバス)

科目名	blender演習 I		指導担当者名	橋本若奈
実務経験	有	フリーで動画配信を行う。伴ってCG制作にも従事		
開講時期	通年	対象学科学年	動画・映像クリエイト科1年	
授業方法	講義：	演習：○	実習：	実技：
年間時間数	84 時間		週時間数	3 時間
学習到達目標	〈通年〉DCCツールであるBlenderの基本を習得し、ローポリゴンモデリング、アニメーション、実写合成ができるようになることを目標とする。 〈前期〉Blenderに慣れる、モデリングのワークフローを学習し、基本的なモデルが制作できるようになることを目標とする。 〈後期〉制作したモデルのアニメーション、実写映像と合成ができるようになることを目標とする。			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績表かは、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。			
使用教材	・Blender・AdobeCC Photoshop・webの画像			
授業外学習の方法	自宅での実習復習			
学期	ターム	項 目	内容・準備資料等	
授業計画 後期	15	前期の復習	前期で学習した内容の確認	
	16	キーフレームアニメーション①	キーフレームアニメーションについて、アニメーション設定	
	17	キーフレームアニメーション②	移動・回転・スケールアニメーション	
	18	キーフレームアニメーション③	ボールのアニメーション	
	19	レンダリング	アニメーションのレンダリング	
	20	実写合成	マッチムーブ機能について	
	21	実写合成	シーン作成	
	22	実写合成	マテリアル設定、ライティング	
	23	実写合成	レンダリング	
	24	【前期期末制作】	素材の撮影、マッチムーブ	
	25	シーン作成	モデリング	
	26	アニメーション	制作したモデルのアニメーション	
	27	レンダリング	Cyclesレンダリング	
	28	期末提出	課題提出	
履修上の留意点				
・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施				

授業計画(シラバス)

科目名	映像コンテンツ制作実習		指導担当者名	宗像愛望
実務経験	有	ウェブ動画切抜き業務、3年間従事		
開講時期	通年	対象学科学年	動画・映像クリエイト科1年	
授業方法	講義：	演習：	実習：○	実技：
年間時間数	84 時間		週時間数	3 時間
学習到達目標	AdobePremiereProの基本操作の習得 ショート動画作品の制作 テロップ入れ、切り方等のテクニックを作品制作を通して身に付ける。			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績表かは、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。			
使用教材	PC、Adobeソフト、動画編集ソフト、撮影素材など			
授業外学習の方法	様々な映像作品を見て知見を広げる			
学期	ターム	項 目	内容・準備資料等	
授業計画 前期	1	PremierePro基礎講座	授業内容説明、環境設定、ワークスペース、編集の流れ	
	2	PremierePro基礎講座	インポート、カット編集、BGM挿入(音量調整)	
	3	PremierePro基礎講座	トランジション、簡単な字幕、書き出し	
	4	YouTubeshortをPremiereProで作ってみよう	好きなもの紹介動画、キーフレーム解説	
	5	YouTubeshortをPremiereProで作ってみよう	好きなもの紹介動画、キーフレーム解説	
	6	YouTubeshortをPremiereProで作ってみよう	好きなもの紹介動画、キーフレーム解説	
	7	作品視聴、発表会	好きなもの、テーマ、雰囲気の方針を固める	
	8	作品視聴、発表会	発表	
	9	YouTubeshort用のリリックビデオを作ってみよう	好きな曲を選び、テロップのデザイン	
	10	YouTubeshort用のリリックビデオを作ってみよう	①映像、音の編集②テロップのデザイン	
	11	YouTubeshort用のリリックビデオを作ってみよう	視認性、フォント、色味調整	
	12	作品視聴、発表会	動画の方針、曲紹介、工夫店の明示	
	13	期末試験、課題	評価・フィードバック	
	14	佐久間さん特別授業①	プロの作品から学ぼう	
履修上の留意点				
・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施				

授業計画(シラバス)

科目名	映像コンテンツ制作実習		指導担当者名	宗像愛望
実務経験	有	ウェブ動画切抜き業務、3年間従事		
開講時期	通年	対象学科学年	動画・映像クリエイト科1年	
授業方法	講義：	演習：	実習：○	実技：
年間時間数	84 時間		週時間数	3 時間
学習到達目標	AdobePremiereProの基本操作の習得 ショート動画作品の制作 テロップ入れ、切り方等のテクニックを作品制作を通して身に付ける。			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績表かは、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。			
使用教材	PC、Adobeソフト、動画編集ソフト、撮影素材など			
授業外学習の方法	様々な映像作品を見て知見を広げる			
学期	ターム	項 目	内容・準備資料等	
授業計画 後期	15	前期振り返り	後期内容の紹介	
	16	依頼を受けてYouTubeshortを作ろう	テロップ、色味調整、など分かりやすい動画の解説	
	17	依頼を受けてYouTubeshortを作ろう	テロップ、色味調整、など分かりやすい動画の解説	
	18	学科紹介YouTubeshortを作ろう	各学科を簡単に紹介する動画を作ろう	
	19	学科紹介YouTubeshortを作ろう	画像、映像の収集、実際に撮影	
	20	切り抜きYouTubeshortを作ろう	ゲーム配信やYoutubeの切り抜き動画を作ろう	
	21	切り抜きYouTubeshortを作ろう	場面選択、文字起こし、効果音	
	22	Vlog風YouTubeshortを作ろう	旅の記録をvlog風にまとめよう	
	23	Vlog風YouTubeshortを作ろう	BGMの選択、テロップデザイン、色味調整	
	24	依頼を受けてYouTubeshortを作ろう	講師より素材提供、絵コンテをもとに動画を作ろう	
	25	依頼を受けてYouTubeshortを作ろう	OCの様子を動画にする	
	26	期末試験	作品紹介(リリックビデオ、切り抜き、vlogなど)	
	27	期末試験	コンセプトシート提出のうえ、制作、提出	
28	佐久間さん特別授業②	プロの作品から学ぼう		
履修上の留意点				
・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施				

授業計画(シラバス)

科目名	コミュニケーション演習		指導担当者名	佐藤 美希子
実務経験	無			
開講時期	前期	対象学科学年	動画・映像クリエイト科1年	
授業方法	講義：	演習：○	実習：	実技：
年間時間数	28 時間		週時間数	時間
学習到達目標	サーティファイ コミュニケーション検定初級の取得、ロールプレイングを通してコミュニケーション力の向上を目指す。			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績表かは、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。			
使用教材	コミュニケーション検定初級 テキスト			
授業外学習の方法	テキストを使用し、過去問題を回答する			
学期	ターム	項 目	内容・準備資料等	
授業計画 前期	1	オリエンテーション	授業の目的、使用教材についての理解、授業の進行について説明	
	2	パート1 コミュニケーションセオリー(理論)	1－1コミュニケーションを考える、2－1目的に即して聞く	
	3	パート1 コミュニケーションセオリー(理論)	2－2傾聴・質問する	
	4	パート1 コミュニケーションセオリー(理論)	3－1目的を意識する	
	5	パート1 コミュニケーションセオリー(理論)	3－2話を組み立てる	
	6	パート1 コミュニケーションセオリー(理論)	3－3言葉を選び抜く	
	7	パート1 コミュニケーションセオリー(理論)	3－4表現伝達する	
	8	パート2 コミュニケーションプラクティス(実践)	1－1来客応対、1－2電話応対	
	9	パート2 コミュニケーションプラクティス(実践)	1－3アポイントメント・訪問・挨拶、1－4情報共有の重要性	
	10	パート2 コミュニケーションプラクティス(実践)	1－5チームコミュニケーション	
	11	パート2 コミュニケーションプラクティス(実践)	2－1接客営業、2－2クレーム対応	
	12	パート2 コミュニケーションプラクティス(実践)	2－3会議・取材・ヒアリング、2－4面接	
	13	検定対策	模擬試験	
	14	期末試験	検定本番	
履修上の留意点				
・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施				

授業計画(シラバス)

科目名	修了制作 I		指導担当者名	担任
実務経験	無			
開講時期	後期	対象学科学年	動画・映像クリエイト科1年	
授業方法	講義：	演習：	実習：○	実技：
年間時間数	180 時間		週時間数	時間
学習到達目標	・1年生：1年間の集大成として学んだこと活かしデジタルコンテンツを制作し、プレゼンテーションをする。			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績表かは、A(80点~100点：優)、B(70点~79点：良)、C(60点~69点：可)、D(0点~59点：不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。			
使用教材	デジタルコンテンツ制作に必要な物を各自用意。			
授業外学習の方法	制作にあたり、事前の企画・計画をそれぞれ複数の先生方と行い、チェックをもらう事			
学期	ターム	項 目	内容・準備資料等	
授業計画 後期	1	作品制作①	事前に準備していた企画・計画に沿ってそれぞれ制作にあたる	
	2	作品制作②	個別添削を行いながら制作を進めていく	
	3	作品制作③	中間発表	
	4	学科内プレゼンテーション	学科内でプレゼンテーションを実施	
	5	発表を受けての修正と展示準備	オンライン展示およびオンサイト展示を実施	
	6	卒業・修了制作展	展示終了後は、アーカイヴ化し、デジタル保存をする	
	7			
	8			
	9			
	10			
	11			
	12			
	13			
	14			
履修上の留意点 ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施				

授業計画(シラバス)

科目名	進路研究Ⅱ		指導担当者名	就職担当職員
実務経験	無			
開講時期	通年	対象学科学年	動画・映像クリエイト科2年	
授業方法	講義：○	演習：	実習：	実技：
年間時間数	28 時間		週時間数	1 時間
学習到達目標	・就職活動での面接、書類突破する事を目標とする。 ・前期は、一般常識を強化 ・後期は、個別指導を強化			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績表かは、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。			
使用教材	SUCCESS			
授業外学習の方法	教科書復習			
学期	ターム	項 目	内容・準備資料等	
授業計画 前期	1	一般常識1	国語 1 漢字の読み書き	
	2	一般常識2	国語 2 対義語・類義語 3 同音異義語・同訓異字	
	3	一般常識3	国語 4 四字熟語 5 故事成語・ことわざ・慣用句	
	4	一般常識4	社会 1 日本史 2 世界史	
	5	一般常識5	社会 3 日本の地理 4 世界の地理	
	6	一般常識6	社会 5 民主政治 6 経済	
	7	小テスト	中学レベル小テスト	
	8	一般常識7	英語 1 英単語・英熟語 2 英文法1 3 英文法2	
	9	一般常識8	英語 4 英文法3 5 会話表現・慣用表現	
	10	一般常識9	数学 1 重要基礎1 2 重要基礎2 3 式と計算	
	11	一般常識10	数学 4 方程式と不等式 5 図形と面積、体積 6 場合の数と確率	
	12	一般常識11	理科 1 物理・化学 2 生物・地学	
	13	一般常識12	文化・芸術・雑学	
	14	期末テスト	一般常識総ざらい	
履修上の留意点				
・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施				

授業計画(シラバス)

科目名	進路研究Ⅱ		指導担当者名	就職担当職員
実務経験	無			
開講時期	通年	対象学科学年	動画・映像クリエイト科2年	
授業方法	講義：○	演習：	実習：	実技：
年間時間数	28 時間		週時間数	1 時間
学習到達目標	・就職活動での面接、書類突破する事を目標とする。 ・前期は、一般常識を強化 ・後期は、個別指導を強化			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績表かは、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。			
使用教材	SUCCESS			
授業外学習の方法	教科書復習			
学期	ターム	項 目	内容・準備資料等	
授業計画 後期	15	志望動機の作り方 1	3-7 業界、会社にあった動機作り	
	16	志望動機の作り方 2	3-7(実践編) 業界、会社にあった動機作り	
	17	制作書類 1	3-8・3-8(実践編)、3-1~3-3(実践編)、3-6~3-6-2エントリーシート	
	18	制作書類 2	3-8・3-8(実践編)、3-1~3-3(実践編)、3-6~3-6-2封筒の書き方、添え状	
	19	制作書類 3	3-8・3-8(実践編)、3-1~3-3(実践編)、3-6~3-6-2その他の書類、履歴書	
	20	制作書類 4	3-8・3-8(実践編)、3-1~3-3(実践編)、3-6~3-6-2履歴書の完成	
	21	就職試験のマナー 1	5-2~5-3(実践編) 入退室	
	22	就職試験のマナー 2	5-2~5-3(実践編) 面接試験対策1	
	23	就職試験のマナー 3	5-2~5-3(実践編) 面接試験対策2	
	24	個別指導1	書類添削、面接指導	
	25	個別指導2	書類添削、面接指導	
	26	個別指導3	書類添削、面接指導	
	27	個別指導4	書類添削、面接指導	
	28	個別指導5	書類添削、面接指導	
履修上の留意点				
・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施				

授業計画(シラバス)

科目名	クロスオーバーゼミⅡ		指導担当者名	常勤
実務経験	無			
開講時期	通年	対象学科学年	動画・映像クリエイト科2年	
授業方法	講義：	演習：○	実習：	実技：
年間時間数	56 時間		週時間数	2 時間
学習到達目標	・学校の特徴でもある複数分野の授業を横断的に学習し、視野を広げ見地を高める。 ・授業内における複数のカリキュラムメニューから自身の興味関心のあるものを選び学習をすることで無理なく学びにつなげることができ、自身の可能性と得意分野を広げていく。			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績表かは、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。			
使用教材	ゼミごとに異なる			
授業外学習の方法	ゼミごとに異なる			
学期	ターム	項 目	内容・準備資料等	
授 業 計 画 前 期	1	オリエンテーション	授業の目的、使用教材についての理解、各担当講師から授業内容について説明。授業選択。	
	2	選択基礎1	選択授業の基礎を学ぶ。	
	3	選択基礎2	選択授業の基礎を学ぶ。	
	4	選択基礎3	選択授業の基礎を学ぶ。	
	5	選択基礎4	選択授業の基礎を学ぶ。	
	6	選択基礎5	選択授業の基礎を学ぶ。	
	7	選択基礎6	選択授業の基礎を学ぶ。	
	8	選択基礎7	選択授業の基礎を学ぶ。	
	9	選択基礎8	選択授業の基礎を学ぶ。	
	10	選択基礎9	選択授業の基礎を学ぶ。	
	11	選択基礎10	選択授業の基礎を学ぶ。	
	12	選択基礎11	選択授業の基礎を学ぶ。	
	13	選択基礎12	期末試験範囲発表、期末試験範囲振り返り	
	14	期末試験	期末試験	
履修上の留意点 ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施				

授業計画(シラバス)

科目名	クロスオーバーゼミⅡ		指導担当者名	常勤
実務経験	無			
開講時期	通年	対象学科学年	動画・映像クリエイト科2年	
授業方法	講義：	演習：○	実習：	実技：
年間時間数	56 時間		週時間数	2 時間
学習到達目標	・学校の特徴でもある複数分野の授業を横断的に学習し、視野を広げ見地を高める。 ・授業内における複数のカリキュラムメニューから自身の興味関心のあるものを選び学習をすることで無理なく学びにつなげることができ、自身の可能性と得意分野を広げていく。			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績表かは、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。			
使用教材	ゼミごとに異なる			
授業外学習の方法	ゼミごとに異なる			
学期	ターム	項 目	内容・準備資料等	
授 業 計 画 後 期	15	オリエンテーション	授業の目的、使用教材についての理解、各担当講師から授業内容について説明。授業選択。	
	16	選択基礎1	選択授業の基礎を学ぶ。	
	17	選択基礎2	選択授業の基礎を学ぶ。	
	18	選択基礎3	選択授業の基礎を学ぶ。	
	19	選択基礎4	選択授業の基礎を学ぶ。	
	20	選択基礎5	選択授業の基礎を学ぶ。	
	21	選択基礎6	選択授業の基礎を学ぶ。	
	22	選択基礎7	選択授業の基礎を学ぶ。	
	23	選択基礎8	選択授業の基礎を学ぶ。	
	24	選択基礎9	選択授業の基礎を学ぶ。	
	25	選択基礎10	選択授業の基礎を学ぶ。	
	26	選択基礎11	選択授業の基礎を学ぶ。	
	27	選択基礎12	期末試験範囲発表、期末試験範囲振り返り	
28	期末試験	期末試験		
履修上の留意点 ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施				

授業計画(シラバス)

科目名	企画運営演習		指導担当者名	矢田部翔子
実務経験	無			
開講時期	通年	対象学科学年	動画・映像クリエイト科2年	
授業方法	講義：	演習：○	実習：	実技：
年間時間数	84 時間		週時間数	3 時間
学習到達目標	・制作活動における企画(プランニング)の重要性の理解 ・より柔軟な発想力の向上 ・企画力、プレゼン力の向上			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績表かは、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。			
使用教材	PC			
授業外学習の方法	クリエイターとしての視点で企画のリサーチ			
学期	ターム	項 目	内容・準備資料等	
授業計画 前期	1	オリエンテーション	授業説明	
	2	映像について	映像の種類と授業で学ぶ映像の種類の説明	
	3	映像について	興味を持つきっかけ(サムネイル等)	
	4	映像について	人間の集中力の持続と映像の関連性	
	5	企画について	コンセプトや制作意図について	
	6	企画について	設定したターゲットにあった規格の重要性	
	7	企画について	現在の流行、需要のリサーチ(年齢、性別指定)	
	8	企画について	自分と他人の価値観のギャップ	
	9	企画について	現状の基本的な企画スタンス(既存+α or 新しいもの)	
	10	企画書制作	企画書を実際に制作、個別指導・添削	
	11	企画書制作	企画書を実際に制作、個別指導・添削	
	12	企画書制作	企画書を実際に制作、個別指導・添削	
	13	前期期末試験	課題提出、プレゼンテーション	
	14	前期振り返り	課題とプレゼンテーションについて講評	
履修上の留意点 ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施				

授業計画(シラバス)

科目名	企画運営演習		指導担当者名	矢田部翔子
実務経験	無			
開講時期	通年	対象学科学年	動画・映像クリエイト科2年	
授業方法	講義：	演習：○	実習：	実技：
年間時間数	84 時間		週時間数	3 時間
学習到達目標	・制作活動における企画(プランニング)の重要性の理解 ・より柔軟な発想力の向上 ・企画力、プレゼン力の向上			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績表かは、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。			
使用教材	PC			
授業外学習の方法	クリエイターとしての視点で企画のリサーチ			
学期	ターム	項 目	内容・準備資料等	
授業計画 後期	15	イベントについて	コメント、評価の重要性	
	16	イベントについて	続けることの重要性	
	17	OBSの使い方	データの作成方法と書き出し	
	18	OBSの使い方	カット、文字入れ、音入れ	
	19	OBSの使い方	機能の使用方法(フェード等)	
	20	OBSの使い方	映像制作のコツを実技を通して説明	
	21	OBSの使い方	映像制作のコツを実技を通して説明	
	22	企画書制作	企画書を実際に制作、個別指導・添削	
	23	企画書制作	企画書を実際に制作、個別指導・添削	
	24	企画書制作	企画書を実際に制作、個別指導・添削	
	25	企画書制作	企画書を実際に制作、個別指導・添削	
	26	企画書制作	企画書を実際に制作、個別指導・添削	
	27	後期期末試験	課題提出、プレゼンテーション	
	28	後期振り返り	課題とプレゼンテーションについて講評	
履修上の留意点 ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施				

授業計画(シラバス)

科目名	デジタルアニメーション実習		指導担当者名	仲井 ひかる		
実務経験	有	フリーで8年間、CGイラスト、アニメーション制作に従事				
開講時期	通年		対象学科学年	動画・映像クリエイト科2年		
授業方法	講義：		演習：		実習：○	実技：
年間時間数	84 時間			週時間数	3 時間	
学習到達目標	アフターエフェクトの基本を習得し、基本的な合成ができるようになることを目標とする。					
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績表かは、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。					
使用教材	・AdobeCC AfterEffects,Premiere,Photoshop,Illustrator ・Autodesk MAYA					
授業外学習の方法	自宅での実習復習					
学期	ターム	項 目		内容・準備資料等		
授業計画 前期	1	オリエンテーション		授業の目的、使用教材についての理解、授業の進行について説明		
	2	基礎知識		フレームレート、ピボットポイント		
	3	Ps基礎		Photoshopの基本操作、画像処理		
	4	Ps,Ai基礎		Photoshopでのマスク制作、Illustratorの基本操作、パスファインダー		
	5	AE基礎。画面説明、基本操作		画面説明、基本操作		
	6	AE基礎。各種ツール説明		各種ツール説明		
	7	AE基礎。テキストツール、キーフレームアニメーション		テキストツール、キーフレームアニメーション		
	8	AE基礎。各種パラメーター説明		各種パラメーター説明		
	9	カメラ設定		ビューポートの設定		
	10	キーフレームアニメーション		基本図形を使ったキーフレームアニメーション		
	11	テキストアニメーション		テキストのパラメータを設定しアニメーションさせる。		
	12	3Dレイヤー、シャイレイヤ		レイヤーの様々な効果について		
	13	タグ付け		レイヤーカラーの割り当て、作業効率アップをさせる。		
	14	期末試験		サンプル動画の再現		
履修上の留意点						
・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施						

授業計画(シラバス)

科目名	デジタルアニメーション実習		指導担当者名	仲井 ひかる		
実務経験	有	フリーで8年間、CGイラスト、アニメーション制作に従事				
開講時期	通年		対象学科学年	動画・映像クリエイト科2年		
授業方法	講義：		演習：		実習：○	実技：
年間時間数	84 時間			週時間数	3 時間	
学習到達目標	アフターエフェクトの基本を習得し、基本的な合成ができるようになることを目標とする。					
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績表かは、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。					
使用教材	・AdobeCC AfterEffects,Premiere,Photoshop,Illustrator ・Autodesk MAYA					
授業外学習の方法	自宅での実習復習					
学期	ターム	項 目		内容・準備資料等		
授業計画 後期	15	前期復習		基本操作の確認		
	16	ラインアニメーション		線のアニメーション		
	17	トラッキング		動画から位置情報を吸い出し、別オブジェクトに設定する。		
	18	パーティクル		簡単なエフェクト制作。		
	19	パペットツール		1枚のイラストからアニメーションを生成する。		
	20	エクスプレッション		簡易スクリプトを理解し、プロシージャルなアニメーション制作をする。		
	21	実践課題		illustratorの素材をバラバラにしてアニメーションを生成する。		
	22	実践課題		実制作		
	23	実践課題		発表、提出		
	24	チーム制作		テーマ発表、チーム発表、企画開始		
	25	絵コンテプレゼン		絵コンテの合評。		
	26	制作		アセット制作		
	27	編集		コンボジット		
28	期末試験		制作発表、提出。			
履修上の留意点						
・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施						

授業計画(シラバス)

科目名	ストリーミング実習Ⅱ		指導担当者名	パクスフン
実務経験	無			
開講時期	通年	対象学科学年	動画映像クリエイト科2年□	
授業方法	講義：	演習：	実習：○	実技：
年間時間数	84 時間		週時間数	3 時間
学習到達目標	実習を通して動画を撮影・編集を学び、さらには配信の現場を自分たちで作れるようになる。			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績表かは、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。			
使用教材	パソコン カメラ ATEM□			
授業外学習の方法	様々な映像作品を見る□			
学期	ターム	項 目	内容・準備資料等	
授業計画 前期	1	ストリーミングとは？	配信とは？（配信の仕組み、必要な機材の説明）	
	2	OBSの高度な設定	カメラの設定	
	3	配信環境の最適化	変換器の設定	
	4	スポーツ配信の基本	スイッチャーの設定	
	5	スポーツ配信の基本	基本的な使い方を学ぶ	
	6	音楽ライブ配信の基礎	音楽配信のためのOBSの設定を作成してみる	
	7	インタビュー配信	マイク	
	8	eスポーツ配信	スピーカー	
	9	eスポーツ配信	みきささー	
	10	教育・セミナー配信	OBS設定、マイクの設定を習得する	
	11	配信のブランディング	OBS設定、マイクの設定を習得する	
	12	期末プロジェクト準備	OBS設定、マイクの設定を習得する	
	13	期末プロジェクト準備	実技試験:配信オペレーション	
	14	期末プレゼンと評価	フィードバック、今後の改善点	
履修上の留意点				
・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施				

授業計画(シラバス)

科目名	ストリーミング実習Ⅱ		指導担当者名	パクスフン
実務経験	無			
開講時期	通年	対象学科学年	動画映像クリエイト科2年□	
授業方法	講義：	演習：	実習：○	実技：
年間時間数	84 時間		週時間数	3 時間
学習到達目標	実習を通して動画を撮影・編集を学び、さらには配信の現場を自分たちで作れるようになる。			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績表かは、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。			
使用教材	パソコン カメラ ATEM□			
授業外学習の方法	様々な映像作品を見る□			
学期	ターム	項 目	内容・準備資料等	
授業計画 後期	15	実際の配信案件準備		
	16	屋外配信の技術	配信時間を考える	
	17	マルチアングル配信	音声と映像を合わせる	
	18	配信企画	配信の企画を立てる	
	19	プロモーション配信	配信するときに画面に必要な情報を一覧にまとめる	
	20	AIを活用した配信	配信での良い音する方法	
	21	視聴者データ分析	朗読劇での配信	
	22	配信企画	e-Sportsでの配信	
	23	配信の最終調整	演劇での配信	
	24	チームごとの配信リハーサル	配信プランを立ててみる	
	25	配信プロジェクト本番	実際に配信をしてみる	
	26	配信企画	弾き語りの配信をしてみる	
	27	最終総括・修了試験		
	28	振り返り		
履修上の留意点 ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施				

授業計画(シラバス)

科目名	コンテンツ制作実習		指導担当者名	伊東 広
実務経験	有	音響制作、スタジオ経営者		
開講時期	通年	対象学科学年	動画・映像クリエイト科2年	
授業方法	講義：	演習：	実習：○	実技：
年間時間数	84 時間		週時間数	3 時間
学習到達目標	・音響機材セッティング/音声収録ができる ・パソコンでのオーディオデータ編集入門 ・文章作成/構成/添削/読み上げ の技術向上 ・1年生:ボイスサンプル制作			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績表かは、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。			
使用教材	パソコン、マイク、ヘッドホン、オーディオインターフェース、ケーブル類			
授業外学習の方法	収録した音声を編集アプリで編集をし、授業内容の復習を行う			
学期	ターム	項 目	内容・準備資料等	
授業計画 前期	1	オリエンテーション	自己紹介・マイク～スピーカー音が出るまで	
	2	パソコン基礎	パソコン操作基礎・ソフトインストール・データ種類/作成/保存	
	3	波形編集ソフト①	PC+オーディオIF 録音	
	4	波形編集ソフト①	PC+オーディオIFキューベース① 録音	
	5	波形編集ソフト②	キューベース② 波形編集・エフェクト1	
	6	波形編集ソフト②	キューベース② 波形編集・エフェクト1	
	7	波形編集ソフト③	キューベース③ 波形編集・エフェクト2、小テスト	
	8	波形編集ソフト③	キューベース③ 波形編集・エフェクト2、小テスト	
	9	ボイスサンプル研究①	歌ってみた制作、仮想CM制作	
	10	ボイスサンプル研究②	歌ってみた制作、仮想CM制作	
	11	ボイスサンプル研究③	歌ってみた制作、仮想CM制作	
	12	ボイスサンプル研究④	歌ってみた制作、仮想CM制作	
	13	前期期末試験	歌ってみた制作、仮想CM制作	
	14	前期振り返り	波形編集ソフト復習、ボイスサンプル復習振り返り	
履修上の留意点				
・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施				

授業計画(シラバス)

科目名	コンテンツ制作実習		指導担当者名	伊東 広
実務経験	有	音響制作、スタジオ経営者		
開講時期	通年	対象学科学年	動画・映像クリエイト科2年	
授業方法	講義：	演習：	実習：○	実技：
年間時間数	84 時間		週時間数	3 時間
学習到達目標	・音響機材セッティング/音声収録ができる ・パソコンでのオーディオデータ編集入門 ・文章作成/構成/添削/読み上げ の技術向上 ・1年生:ボイスサンプル制作			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績表かは、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。			
使用教材	パソコン、マイク、ヘッドホン、オーディオインターフェース、ケーブル類			
授業外学習の方法	収録した音声を編集アプリで編集をし、授業内容の復習を行う			
学期	ターム	項 目	内容・準備資料等	
授業計画 後期	15	音響制作①	舞台音響制作体験①	
	16	音響制作②	舞台音響制作体験②	
	17	作品制作①	ボイスラジオドラマ制作 企画	
	18	作品制作②	ボイスラジオドラマ制作 企画	
	19	作品制作③	ボイスラジオドラマ制作 台本作・キャスティング	
	20	作品制作④	ボイスラジオドラマ制作 台本作・キャスティング	
	21	作品制作⑤	ボイスラジオドラマ制作 収録・BGMや効果音の選出	
	22	作品制作⑥	ボイスラジオドラマ制作 収録・BGMや効果音の選出	
	23	作品制作⑦	ボイスラジオドラマ制作 収録・BGMや効果音の選出	
	24	作品制作⑧	ボイスラジオドラマ制作 編集作業	
	25	作品制作⑨	ボイスラジオドラマ制作 編集作業	
	26	作品制作⑩	ボイスラジオドラマ制作 編集作業	
	27	後期末試験	ボイスドラマ完パケ	
28	後期振り返り	舞台音響復習、ボイスドラマ制作復習振り返り		
履修上の留意点				
・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施				

授業計画(シラバス)

科目名	Adobe演習Ⅱ		指導担当者名	青木龍太郎
実務経験	有	カメラマン、動画撮影、動画編集者として5年間勤務し、現在フリーで活動している		
開講時期	通年	対象学科学年	動画・映像クリエイト科2年	
授業方法	講義：	演習：	実習：○	実技：
年間時間数	84 時間		週時間数	3 時間
学習到達目標	・デジタルにおけるイラスト表現の基礎を習得する ・フォトショップ、イラストレーターの使用技術の習得 ・フォトショップ検定初級を取得する(12月実施予定) ・イラストレーター検定初級を取得する(8月実施予定)			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績表かは、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。			
使用教材	Machintosh PC,IllustratorクイックマスターCC (Win/Mac) 対応,PhotoshopクイックマスターCC (Win/Mac) 対応			
授業外学習の方法	・テキストを使つての事前予習 ・テキストを使つての実技練習			
学期	ターム	項 目	内容・準備資料等	
授業計画 前期	1	Illustrator検定対策(スタンダード)	クイックマスターIllustratorの基礎知識／インターフェース・ツール・パネル	
	2	Illustrator検定対策(スタンダード)	クイックマスターIllustratorの基礎知識／アートワーク・アートボードナビゲーター・ガイド・環境設定	
	3	Illustrator検定対策(スタンダード)	クイックマスターIllustratorの基本操作／オブジェクトの設定と描画	
	4	Illustrator検定対策(スタンダード)	クイックマスターIllustratorの基本操作／編集操作(CP・前後関係・グループ化・移動)	
	5	Illustrator検定対策(スタンダード)	クイックマスターIllustratorの基本操作／カラー設定・レイヤーオブジェクトの組み合わせ	
	6	Illustrator検定対策(スタンダード)	クイックマスターIllustratorの基本操作／文字の作成・文字関連の機能	
	7	Illustrator検定対策(スタンダード)	クイックマスターIllustratorの基本操作／パスの基本的な描画と編集	
	8	Illustrator検定対策(スタンダード)	クイックマスターIllustratorの応用操作／線とアピアランス	
	9	Illustrator検定対策(スタンダード)	クイックマスターIllustratorの応用操作／レイアウトの補助機能	
	10	Illustrator検定対策(スタンダード)	クイックマスターIllustratorの応用操作／グラデーション・スウォッチ・パターン	
	11	過去問題	スタンダード模擬問題-1 解説	
	12	過去問題	スタンダード模擬問題-2 解説	
	13	前期期末試験	実際の試験同様の時間で知識と実技試験の実施	
	14	期末試験フィードバック	検定試験前の最終確認授業	
履修上の留意点				
・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施				

授業計画(シラバス)

科目名	Adobe演習Ⅱ		指導担当者名	青木龍太郎
実務経験	有	カメラマン、動画撮影、動画編集者として5年間勤務し、現在フリーで活動している		
開講時期	通年	対象学科学年	動画・映像クリエイト科2年	
授業方法	講義：	演習：	実習：○	実技：
年間時間数	84 時間		週時間数	3 時間
学習到達目標	・デジタルにおけるイラスト表現の基礎を習得する ・フォトショップ、イラストレーターの使用技術の習得 ・フォトショップ検定初級を取得する(12月実施予定) ・イラストレーター検定初級を取得する(8月実施予定)			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績表かは、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。			
使用教材	Machintosh PC,IllustratorクイックマスターCC (Win/Mac) 対応,PhotoshopクイックマスターCC (Win/Mac) 対応			
授業外学習の方法	・テキストを使つての事前予習 ・テキストを使つての実技練習			
学期	ターム	項 目	内容・準備資料等	
授業計画 後期	15	Photoshop検定対策(スタンダード)	クイックマスターPhotoshopの基礎知識／インターフェース・ドキュメントウィンドウ・ツール・パネル	
	16	Photoshop検定対策(スタンダード)	クイックマスターPhotoshopの基礎知識／画面表示・色の選択・環境設定	
	17	Photoshop検定対策(スタンダード)	クイックマスターPhotoshopの基本操作／選択ツール・範囲の読み込み	
	18	Photoshop検定対策(スタンダード)	クイックマスターPhotoshopの基本操作／画像解像度とサイズトリミング	
	19	Photoshop検定対策(スタンダード)	クイックマスターPhotoshopの基本操作／変形・カラーモード色調補正	
	20	Photoshop検定対策(スタンダード)	クイックマスターPhotoshopの基本操作／ペイント・レタッチ・レイヤーの操作	
	21	Photoshop検定対策(スタンダード)	クイックマスターPhotoshopの基本操作／パス・切抜・シェイプ・フィルター・テキストの入力について	
	22	Photoshop検定対策(スタンダード)	クイックマスターPhotoshopの応用操作／コンテンツ制作・ロゴ制作／カスタムシェイプ	
	23	Photoshop検定対策(スタンダード)	クイックマスターPhotoshopの応用操作／コンテンツ制作・フォトカード／アクション	
	24	Photoshop検定対策(スタンダード)	クイックマスターPhotoshopの応用操作／Webページの制作	
	25	過去問題	スタンダード模擬問題-1 解説	
	26	過去問題	スタンダード模擬問題-2 解説	
	27	前期期末試験	実際の試験同様の時間で知識と実技試験の実施	
	28	期末試験フィードバック	検定試験前の最終確認授業	
履修上の留意点				
・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施				

授業計画(シラバス)

科目名	番組制作実習Ⅱ		指導担当者名	鈴木 良明
実務経験	有	テレビ局で映像ディレクターとして3年以上従事		
開講時期	通年	対象学科学年	動画・映像クリエイト科2年	
授業方法	講義：	演習：○	実習：	実技：
年間時間数	84 時間		週時間数	3 時間
学習到達目標	実習を通して動画を撮影・編集を学び、業務レベルの動画を作成できるようになる。			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績表かは、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。			
使用教材	パソコン カメラ			
授業外学習の方法	様々な映像作品を見る			
学期	ターム	項 目	内容・準備資料等	
授業計画 前期	1	オリエンテーション	授業の流れについて	
	2	動画とは	動画についての基礎知識習得	
	3	動画の作成方法について	作成方法と使用ソフトについての説明	
	4	グループ分け	動画制作グループ分け	
	5	動画企画作成①	グループに分かれての動画企画制作	
	6	動画企画作成②	グループに分かれての動画企画制作	
	7	動画企画作成③	グループに分かれての動画企画制作	
	8	撮影①	企画を元にした動画撮影	
	9	撮影②	企画を元にした動画撮影	
	10	撮影③	企画を元にした動画撮影	
	11	編集①	撮影した動画の編集	
	12	編集②	撮影した動画の編集	
	13	編集③	撮影した動画の編集	
	14	期末テスト	作成した映像のプレゼンテーション	
履修上の留意点				
・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施				

授業計画(シラバス)

科目名	番組制作実習Ⅱ		指導担当者名	鈴木 良明
実務経験	有	テレビ局で映像ディレクターとして3年以上従事		
開講時期	通年	対象学科学年	動画・映像クリエイト科2年	
授業方法	講義：	演習：○	実習：	実技：
年間時間数	84 時間		週時間数	3 時間
学習到達目標	実習を通して動画を撮影・編集を学び、業務レベルの動画を作成できるようになる。			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績表かは、A(80点~100点：優)、B(70点~79点：良)、C(60点~69点：可)、D(0点~59点：不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。			
使用教材	パソコン カメラ			
授業外学習の方法	様々な映像作品を見る			
学期	ターム	項 目	内容・準備資料等	
授業計画 後期	15	前期振り返り		
	16	仕事をする上での動画とは	仕事上で気を付けることを考える	
	17	依頼の受け方	依頼を受ける方法について	
	18	グループ分け	動画制作グループ分け	
	19	動画企画作成①	グループに分かれての動画企画制作	
	20	動画企画作成②	グループに分かれての動画企画制作	
	21	動画企画作成③	グループに分かれての動画企画制作	
	22	撮影①	企画を元にした動画撮影	
	23	撮影②	企画を元にした動画撮影	
	24	撮影③	企画を元にした動画撮影	
	25	編集①	撮影した動画の編集	
	26	編集②	撮影した動画の編集	
	27	編集③	撮影した動画の編集	
28	期末テスト	作成した映像のプレゼンテーション		
履修上の留意点				
・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施				

授業計画(シラバス)

科目名	動画撮影実習Ⅱ		指導担当者名	青木龍太郎
実務経験	有	カメラマン、動画撮影、動画編集者として5年間勤務し、現在フリーで活動している		
開講時期	通年	対象学科学年	動画・映像クリエイト科2年	
授業方法	講義：	演習：	実習：○	実技：
年間時間数	84 時間		週時間数	3 時間
学習到達目標	基礎的な動画撮影方法、Premiere Proでの動画編集技術を習得し、SNS等への動画投稿までの一連の流れを体験する。			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績表かは、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。			
使用教材	Machintosh PC、Premiere Pro			
授業外学習の方法	メディアを通して動画の撮影・編集方法を研究する			
学期	ターム	項 目	内容・準備資料等	
授業計画 前期	1	オリエンテーション	short動画説明、撮影、授業説明	
	2	映像について	映像の種類と授業で学ぶ映像の説明	
	3	映像について	コンセプトや制作意図について	
	4	映像について	現在の流行、需要のリサーチ	
	5	企画の基礎	マーケティング	
	6	企画の基礎	ブランディング	
	7	企画の基礎	企画書作成	
	8	企画の基礎	企画書作成	
	9	動画制作	動画撮影	
	10	動画制作	動画撮影	
	11	動画制作	動画撮影	
	12	動画制作	動画撮影	
	13	発表	プレゼンテーション	
	14	まとめ	レポート作成	
履修上の留意点				
・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施				

授業計画(シラバス)

科目名	動画撮影実習Ⅱ		指導担当者名	青木龍太郎
実務経験	有	カメラマン、動画撮影、動画編集者として5年間勤務し、現在フリーで活動している		
開講時期	通年	対象学科学年	動画・映像クリエイト科2年	
授業方法	講義：	演習：	実習：○	実技：
年間時間数	84 時間		週時間数	3 時間
学習到達目標	基礎的な動画撮影方法、Premiere Proでの動画編集技術を習得し、SNS等への動画投稿までの一連の流れを体験する。			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績表かは、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。			
使用教材	Machintosh PC、Premiere Pro			
授業外学習の方法	メディアを通して動画の撮影・編集方法を研究する			
学期	ターム	項 目	内容・準備資料等	
授業計画 後期	15	オリエンテーション	short動画説明、撮影、授業説明	
	16	映像について	映像の種類と授業で学ぶ映像の説明	
	17	映像について	コンセプトや制作意図について	
	18	映像について	現在の流行、需要のリサーチ	
	19	企画の基礎	マーケティング	
	20	企画の基礎	ブランディング	
	21	企画の基礎	企画書作成	
	22	企画の基礎	企画書作成	
	23	動画制作	動画撮影	
	24	動画制作	動画撮影	
	25	動画制作	動画撮影	
	26	動画制作	動画撮影	
	27	発表	プレゼンテーション	
28	まとめ	レポート作成		
履修上の留意点				
・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施				

授業計画(シラバス)

科目名	映像コンテンツ制作実習		指導担当者名	宗像愛望
実務経験	有	ウェブ動画切抜き業務、3年間従事		
開講時期	通年	対象学科学年	動画・映像クリエイト科2年	
授業方法	講義：	演習：	実習：○	実技：
年間時間数	84 時間		週時間数	3 時間
学習到達目標	AdobePremiereProの基本操作の習得 ショート動画作品の制作 テロップ入れ、切り方等のテクニックを作品制作を通して身に付ける。			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績表かは、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。			
使用教材	PC、Adobeソフト、動画編集ソフト、撮影素材など			
授業外学習の方法	様々な映像作品を見て知見を広げる			
学期	ターム	項 目	内容・準備資料等	
授業計画 前期	1	PremierePro基礎講座	授業内容説明、環境設定、ワークスペース、編集の流れ	
	2	PremierePro基礎講座	インポート、カット編集、BGM挿入(音量調整)	
	3	PremierePro基礎講座	トランジション、簡単な字幕、書き出し	
	4	YouTubeshortをPremiereProで作ってみよう	好きなもの紹介動画、キーフレーム解説	
	5	YouTubeshortをPremiereProで作ってみよう	好きなもの紹介動画、キーフレーム解説	
	6	YouTubeshortをPremiereProで作ってみよう	好きなもの紹介動画、キーフレーム解説	
	7	作品視聴、発表会	好きなもの、テーマ、雰囲気の方針を固める	
	8	作品視聴、発表会	発表	
	9	YouTubeshort用のリリックビデオを作ってみよう	好きな曲を選び、テロップのデザイン	
	10	YouTubeshort用のリリックビデオを作ってみよう	①映像、音の編集②テロップのデザイン	
	11	YouTubeshort用のリリックビデオを作ってみよう	視認性、フォント、色味調整	
	12	作品視聴、発表会	動画の方針、曲紹介、工夫店の明示	
	13	期末試験、課題	評価・フィードバック	
	14	佐久間さん特別授業①	プロの作品から学ぼう	
履修上の留意点				
・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施				

授業計画(シラバス)

科目名	映像コンテンツ制作実習		指導担当者名	宗像愛望
実務経験	有	ウェブ動画切抜き業務、3年間従事		
開講時期	通年		対象学科学年	動画・映像クリエイト科2年
授業方法	講義：		演習：	実習：○ 実技：
年間時間数	84 時間		週時間数	3 時間
学習到達目標	AdobePremiereProの基本操作の習得 ショート動画作品の制作 テロップ入れ、切り方等のテクニックを作品制作を通して身に付ける。			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績表かは、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。			
使用教材	PC、Adobeソフト、動画編集ソフト、撮影素材など			
授業外学習の方法	様々な映像作品を見て知見を広げる			
学期	ターム	項 目	内容・準備資料等	
授業計画 後期	15	前期振り返り	後期内容の紹介	
	16	依頼を受けてYouTubeshortを作ろう	テロップ、色味調整、など分かりやすい動画の解説	
	17	依頼を受けてYouTubeshortを作ろう	テロップ、色味調整、など分かりやすい動画の解説	
	18	学科紹介YouTubeshortを作ろう	各学科を簡単に紹介する動画を作ろう	
	19	学科紹介YouTubeshortを作ろう	画像、映像の収集、実際に撮影	
	20	切り抜きYouTubeshortを作ろう	ゲーム配信やYoutubeの切り抜き動画を作ろう	
	21	切り抜きYouTubeshortを作ろう	場面選択、文字起こし、効果音	
	22	Vlog風YouTubeshortを作ろう	旅の記録をvlog風にまとめよう	
	23	Vlog風YouTubeshortを作ろう	BGMの選択、テロップデザイン、色味調整	
	24	依頼を受けてYouTubeshortを作ろう	講師より素材提供、絵コンテをもとに動画を作ろう	
	25	依頼を受けてYouTubeshortを作ろう	OCの様子を動画にする	
	26	期末試験	作品紹介(リリックビデオ、切り抜き、vlogなど)	
	27	期末試験	コンセプトシート提出のうえ、制作、提出	
28	佐久間さん特別授業②	プロの作品から学ぼう		
履修上の留意点				
・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施				

授業計画(シラバス)

科目名	著作権概論		指導担当者名	矢田部 翔子	
実務経験	無				
開講時期	前期	対象学科学年	動画・映像クリエイト科2年		
授業方法	講義：○	演習：	実習：	実技：	
年間時間数	28 時間		週時間数	時間	
学習到達目標	ビジネス著作権検定BASIC級の合格				
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績表かは、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。				
使用教材	ビジネス著作権検定 ベーシックテキスト				
授業外学習の方法	テキストの復習等				
学期	ターム	項 目	内容・準備資料等		
授業計画 前期	1	オリエンテーション/第1章 著作権とは何か	試験概要説明/著作権の性質・著作権法の目的		
	2	第2章 著作権で保護されるもの①	著作権で保護されるもの		
	3	第3章 著作権は誰が持つ	著作者の定義、著作者の例外、著作者と著作権者		
	4	第4章 著作権の内容①	著作権の内容 人格権と財産権、著作者人格権(公表権、氏名表示権、同一性保持権、一身専属性)		
	5	第4章 著作権の内容②	財産権としての著作権、複製権、上映権、演奏権、上演権		
	6	第4章 著作権の内容③	公衆送信権、貸与権、譲渡権、頒布権、二次的著作物		
	7	第5章 著作権はいつまで保護される	著作権の始期、著作権の保護期間、国際的保護		
	8	第7章 勝手に使える場合がある①	権利制限規定、私的使用関係、付随的著作物		
	9	第7章 勝手に使える場合がある②	教育関係、図書館関係、非営利無償の上演・演奏等、引用転載関係		
	10	第8章 著作物を伝達する者を保護する制度①	著作隣接権とは		
	11	第9章 勝手に使うとどうなるか	著作権の侵害		
	12	第10章 著作権に関連する制度	知的財産権、情報モラルと著作権		
	13	検定対策	模擬試験		
	14	期末試験	検定本番		
履修上の留意点					
・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施					

授業計画(シラバス)

科目名	卒業制作		指導担当者名	担任
実務経験	無			
開講時期	後期	対象学科学年	動画・映像クリエイト科2年	
授業方法	講義：	演習：	実習：○	実技：
年間時間数	180 時間		週時間数	時間
学習到達目標	・卒業生：2, 3年間の集大成として学んだこと活かしデジタルコンテンツを制作し、プレゼンテーションをする。			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績表かは、A(80点~100点：優)、B(70点~79点：良)、C(60点~69点：可)、D(0点~59点：不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。			
使用教材	デジタルコンテンツ制作に必要な物を各自用意。			
授業外学習の方法	制作にあたり、事前の企画・計画をそれぞれ複数の先生方と行い、チェックをもらう事			
学期	ターム	項 目	内容・準備資料等	
授業計画 後期	1	作品制作①	事前に準備していた企画・計画に沿ってそれぞれ制作にあたる	
	2	作品制作②	個別添削を行いながら制作を進めていく	
	3	作品制作③	中間発表	
	4	学科内プレゼンテーション	学科内でプレゼンテーションを実施	
	5	発表を受けての修正と展示準備	オンライン展示およびオンサイト展示を実施	
	6	卒業・修了制作展	展示終了後は、アーカイブ化し、デジタル保存をする	
	7			
	8			
	9			
	10			
	11			
	12			
	13			
	14			
履修上の留意点				
・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施				